



ゆめしま未来塾では、高校の授業と連携した個別学習指導や、小論文添削、面接指導などの受験対策に加え、生徒の人間性、社会性を育むキャリア教育も展開しました。開塾当初は通塾生も少数でした

当時、大阪府から移住し、ゆめしま未来塾の現場リーダー(塾長)として赴任した元島おこし協力隊の中裏修平さん。「塾の運営方法をめぐって現場の先生方と意見が合わず、衝突することも多かった。「体制を盤石にし、やりきるしかない」との思いで粘り強く話し合い、他校の事例も参考にしながら運営制度を整えていった」と振り返ります。

体制を盤石に 走り出した公営塾



ゆめしま未来塾 初代塾長 中裏 修平 さん



▲ 公営塾 塾長当時の中裏さん

が、高校教員の後押しもあり、次第に教室に入りきらないほどの生徒が集まるようになりました。開塾当初から通っていた同校OGの藤原真衣さんは、「家や学校以外に勉強できる場所がなく、塾の存在は本当にあ

魅力化プロジェクトについて中裏さんは、「今後も魅力化を動かす立場として関わり続けたい。『生徒が行きたい、保護者が通わせたい、地域が生かしたい』、そんな学校になっ

りがあった。勉強の習慣が身につく、意識が大きく変わった」と語ります。ゆめしま未来塾の開設を皮切りに、魅力化事業は探究学習のカリキュラム改革、生徒の全国募集、給食提供の開始、学生寮「ゆめしま寮」の開設など、着々と取り組みを進めてきました。入学者数は魅力化開始以降、年によって変動はあるものの30名前後で推移。全国募集開始後は、北は北海道、西は山口県まで留學生が入学し、本年度までに50人以上(因島を除く)を受け入れています。現在、中裏さんは下弓削地区で中学生向けの学習塾を経営する傍ら、一昨年度には教育系の一般社団法人を設立し、「ゆめしま未来塾」講師への運営に関する助言、サポートを行っています。

Interview

「弓削高校には一人ひとり役割がある。いろんなことに挑戦してほしい」



2020年卒業 藤原 真衣 さん

上島町出身で2020年度に弓削高校を卒業した藤原真衣さん。在学中は生徒会副会長として学校を支え、地域イベントにも積極的に参加してきました。「地域に育ててもらったと強く感じています」と、当時を振り返ります。

高校卒業後は岡山市内の大学へ進み、現在は同市内の中学校で国語教諭として教壇に立ちます。教師を志したきっかけは公営塾で出会った中裏さんの存在でした。「自信を無くし、「志望校を変えたい」と相談したとき、『それで納得できるのか』と喝を入れてもらいました。あんなに深い愛情を持って寄り添ってくれる大人は他にいませんでした。私もこんな人になりたいと教師を目指しました」。今はその思いを胸に、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことを大切にしていると話します。「情熱を忘れず、子どもたちに歩み寄りながら接していきたい」。

母校の後輩に向けて一言。「今の弓削高は県外からも沢山人が集まり、上島町だけでない新しいよさが出てきていると思う。一人ひとりに役割があって、挑戦できる環境が整っているの、いろんなことに挑戦してほしいです」。



高校魅力化の取り組み

つなぐ これまで これから

~プロジェクト開始から10年、次なる未来に向けて~

弓削高校魅力化プロジェクト これまでの歩み

年度	内容
2006年	愛媛県立弓削高等学校教育振興補助金 創設 ①通学補助 ②自転車購入補助 ③集団宿泊研修補助 ④公式戦参加補助 ⑤入学祝金 ⑥地域みらい留学参加費 ⑦下宿補助 ※エアコン設置 H26 ※町内社会体育施設使用減免等
2013年	愛媛県立弓削高等学校振興対策協議会 設立
2017年	弓削高等学校魅力化プロジェクトスタート 弓削高等学校公営塾「ゆめしま未来塾」開塾 ※11月1日~
2019年	総合学習カリキュラム改革「しごとづくり学」スタート 全国募集 開始
2020年	地域みらい留学へ参画(町サポート)
2022年	弓削高校魅力化プロジェクトのコンセプト(キャッチコピー)作成 給食提供スタート
2023年	高校魅力化コーディネーター設置
2024年	学生寮「ゆめしま寮」運営開始 専属校長配属 部活動強制入部廃止
2025年	総合的な探究の時間を2単元に増加 起業部 株式会社設立
2026年	長崎県立杵岐商業高等学校と姉妹校提携

上島町内唯一の高校を存続の危機から救うために始動した「弓削高校魅力化プロジェクト」。2017年のプロジェクト開始から、来年で10年を迎えます。「生徒が行きたい、保護者が通わせたい、地域が生かしたい」学校づくりをモットーに、高校と町が体となり、公営塾の設立、地域を巻き込んだ授業展開、学生寮の開設など、着実に歩みを進めてきました。本稿では、10年の歩みを関係者の言葉とともに振り返り、これからの弓削高校の展望をお伝えします。

弓削高校魅力化プロジェクト 始まりの経緯

高校魅力化プロジェクトは、少子化により生徒数の減少が著しい高校において、独自の教育カリキュラムや公営塾による進学支援を展開し、通いたくなる学校づくりを進める取り組みです。弓削高校を含む全国のプロジェクト推進校では、学生寮の建設などにより、全国から生徒を受け入れる体制も整備されています。

弓削高校でのプロジェクトの発端は2013年度に遡ります。この年の新入生はわずか14人。開校から多い時には1学年200人いた生徒は大幅に減り、同年に発表された愛媛県立学校再編整備計画では、「入学生が20人未満の状況が3年続き、その後も増える見込みがなければ募集停止」(離島地域限定の条件)と示され、学校存続に危機感が高まりました。

高校の存続は、上島町における子育て世代の流出や移住希望世帯の転入抑制にもつながる重大な課題です。この状況を受け、同年7月には高校・役場・地域が連携し、「愛媛県立弓削高等学校振興対策協議会」を設立、プロジェクト推進の体制が整いました。

また、当時は町内の中学生が大学進学を見据えて今治や尾道の進学校へ進むケースも多く、学力支援の体制強化が必要でした。そこでプロジェクトの第一弾として町営学習塾「ゆめしま未来塾」の開設が決定。県内初となる公営塾が2017年11月にスタートしました。